

2025年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任			
地理歴史	地理総合	2	2年次	内山 直希			
選択するときの条件	必修科目なので、必ず履修してください。						
使用教科書	東京書籍「地理総合」 二宮書店「詳解現代地図 最新版」	使用副教材	東京書籍「地理総合」ワークノート				
科目の目標			道徳教育のねらい				
① この世界で起きていることを、地図や地理情報システムなどを活用し、適切な資料のもと、明らかにしていく力を養う。 ② この世界で起きていることを、位置や分布、場所、人間と自然との関わり、空間的な関わり、地域などに着目して、多面的・多角的に考え、議論する力を養う。 ③ この世界の課題について、主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。				
学習活動内容		育てたい6つの力（資質・能力）					
		1	2	3	4	5	6
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力
	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界						
1	第1章 私たちが暮らす世界(P5～18)	○	◎	○	◎	○	
2	第2章 地図や地理情報システムの役割(P19～36)	○	◎	○	◎	○	
3	第3章 資料から読み取る現代世界 (P37～54)	○	○	◎	◎	○	
	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境						
4	1節 生活文化の多様性と国際理解(P55～67)	◎	○	○	○		
5	2節 生活文化と自然環境①地形(P68～77)	○	◎	◎	○		
6	3節 生活文化と自然環境②気候(P78～91)	○	◎	◎	○		
7	4節 生活文化と産業(P92～120)	○	◎	○	○	○	
	第2編 国際理解と国際協力 第2章 さまざまな地球的課題と国際協力						
8	1節 地球環境問題(P121～129)	◎	○	○	◎	○	
9	2節 資源・エネルギー問題(P130～135)	◎	◎	◎	○	○	
10	3節 人口問題(P136～141)	◎	○	◎	◎	○	
11	4節 食料問題(P141～145)	◎	○	◎	◎		
12	5節 居住・都市問題(P145～149)	◎	○	◎	◎		
13	6節 民族問題(P150～153)	◎	◎	◎	◎	○	
14	7節 持続可能な社会の実現をめざして(P154～172)	◎	○	◎	◎	○	
	第3編 持続可能な地域づくりと私たち						
15	第1章 自然環境と防災 (P173～202)	◎	○	◎		◎	○
16	第2章 生活圏の調査と地域の展望(P203～211)	◎	○	◎		◎	◎
17	グループワーク	◎			◎	◎	○
18	課題提出	◎			○	◎	○
19	考査（定期考査・単元テスト）		◎	◎			◎
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	この世界で起きていること明らかにしていくために、地理に関わる基本的な事項を理解するとともに、地図や諸資料、地理情報システムを的確に使うことができる。		この世界で起きていることを、位置や分布、場所、人間と自然との関わり、空間的な関わり、地域などに着目して、多面的・多角的に考え、まとめ上げ、議論することができる。		よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度をもとに、世界の諸地域の多様な文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。		
評価の方法	次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。						
	A: 目標に対する到達度が70%～100%		B: 目標に対する到達度が45%～69%		C: 目標に対する到達度が0%～44%		
	教科・科目における各観点	授業における取組		定期考査など		ノートやレポートなどの課題	
	知識・技能	○	◎	◎	○		
思考・判断・表現	◎	◎	◎	○			
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	◎			

地理総合 授業計画

授 業 計 画				実施状況			
月 (時数)	単元・考査等 (配当時間)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4 5	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章わたしたちが暮らす世界	○地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考えます。 ○地図にはさまざまな種類が存在し、地図の種類に応じた用途の多様性を考えます。 ○日本の位置と領域や排他的経済水域について理解し、その重要性について考えます。 ○地形図から読み取れることについて理解します。 ○地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察します ○地理情報システム (GIS) についての理解を深め、その活用についての技能を高めます。 ○交通手段の多様性と其の長所・短所について理解します。 ○通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考えます。 ○国境をこえる人々の動きについて理解します。 ○国際分業と産業の変化について考えます。 ○多極化する世界の変化について考えます。	1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図 3 日本の位置と領域 4 地図の種類 5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り 7 地理情報システムと地図 8 交通の発達 9 情報通信の発達 10 国境をこえる人々の移動 11 拡大する貿易 12 つながる世界、多極化する世界 15時間			
	6	第2編 国際理解と国際協力 第3章資料から読み取る現代世界 単元テスト②					
	7	第1章人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形 3節 生活文化と自然環境②気候	○地域によって文化が異なる理由について理解します。 ○世界の宗教の分布や宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解します。 ○山地や河川、海岸における地形の特徴やさまざまな暮らしの工夫、その利用について理解します。 ○気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考えます。 ○各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解します。 ○各気候区における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考えます。 ○自然環境の面から、食生活の地域差について理解します。 ○社会環境の面から、農業形態の地域差について理解します。 ○工業立地や商業立地について理解します。	13 文化の地域性と多様性 14 宗教と人々の暮らし 15 山地の暮らし 16 平野の暮らし 17 海岸の暮らし 18 多様な気候とその分布 19 熱帯の人々の暮らし 20 乾燥帯の人々の暮らし 21 温帯の人々の暮らし 22 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし 23 食生活と農業の分布 24 工業立地の変化 25 商業立地と人々の生活 26 情報産業の発展と生活文化の変化 25時間			
	8	前期期末考査					
	9	4節 生活文化と産業					
	後 期	10	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	○環境問題の解決に向けた取り組みを考えます。 ○森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考えます。 ○エネルギー資源の種類について理解し、その課題について考えます。 ○人口問題を理解し、その要因・影響を考えます。 ○少子高齢化対策として先進国で行われている取り組みを理解し、その成果や課題を考えます。 ○食料問題が生じる背景について理解します。 ○発展途上国で進む都市人口の増加の背景を理解します。 ○発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解します。 ○先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解します。 ○難民が発生する原因や、民族問題の背景について考えます。 ○地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解します。 ○持続可能な開発のための解決法を考えます。	27 地球環境問題(1) 28 地球環境問題(2) 29 資源・エネルギーの偏在 30 化石燃料から再生可能エネルギーへ 31 発展途上国の人口問題 32 先進国の人口問題 33 食料需給をめぐる問題 34 発展途上国の居住・都市問題 35 先進国の居住・都市問題 36 民族問題・難民問題 37 地球的課題と国際協力 18時間		
		11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題 6節 民族問題				
		12	7節 持続可能な社会の実現をめざして 第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色 2節 さまざまな自然災害と防災	○日本の地形や気候の特徴を理解します。 ○日本における地震について、震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害に違いがあることを理解します。 ○過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解します。 ○ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取ります。 ○火山活動ともなる災害の種類を理解します。 ○火山活動が関係するさまざまなめぐみを理解します。 ○季節によって発生しやすい気象災害とその特徴について理解し、気象災害の要因・影響について考えます。 ○大規模災害への対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解します。 ○これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助に関して、どのような対策を講じていくべきかを考えます。 ○身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解します。 ○身近な地域で生じている課題の要因をさまざまな角度から分析し、仮説を設定します。 ○地域調査の計画、実施、まとめ、発表をおこないます。	38 日本の地形の特色 39 日本の気候の特色 40 地震災害・津波災害(1) 41 地震災害・津波災害(2) 42 火山の災害とめぐみ 43 気象災害(1) 寒さ・暑さと台風 44 気象災害(2) 大雨と洪水・土砂災害 45 都市と自然災害 46 防災・減災と復旧・復興 47 調査テーマの設定 48 地域調査1(資料調査) 49 地域調査2(野外調査) 50 まとめと発表 12時間		
		1					
2		後期期末考査					
3		第2章 生活圏の調査と地域の展望					